

1 幼稚園の教育目標

教育目標 豊かな心とたくましい体を持った子

- ・子ども理解に努め、一人一人の発達特性や個に応じた指導をする。
- ・遊びをひろげ、深める環境を構成する。
- ・社会の変化や地域の要請に応え、保護者との連携を密にして保育を進める。
- ・小学校教育との結びつきを図るため、地域の小学校との連携を進める。

重点目標 思いやりのある子 がんばりのきく子 挨拶のできる子

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てる。
- ・他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人と関わり合う力を養う。
- ・自分の思いを言葉で表現しようしたり相手の話す言葉を聞こうしたりする態度を育て、言葉に対する感覚や言葉による表現力を養う。
- ・感じたことや考えた事を様々な方法で表現する事により、豊かな感性や表現力を養う。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、知ろうとしたりかかわりを深めたりしようとする態度を養う。
- ・教員が、一人一人の幼児との間に愛情と信頼の関係を築くとともに、幼児の心が開く接し方に心がけ、幼児の伸びようと姿を支えていく。

2 評価項目の達成及び取組状況 (評価 A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果がやや足りない D：取り組みが不十分である)

(1) 指導領域の評価

評価の項目と主な観点	評価	評価の理由(成果や課題・改善策)	関係者評価
① 健康安全・体力の向上 ・朝の持久走や運動遊び等による体力や運動能力の向上 ・健康で安全な生活をしようとする態度や習慣 ・様々な食べ物に興味を持ち進んで食べようとする意欲	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上は、重点目標でもあり職員の意識も高い。 ・朝のマラソン・体操は、昨年度以上に実施することができた。 ・課外だけでなく通常保育でも明誠スポーツクラブの先生が指導してくれたため、充実した運動ができた。その結果、園児の意欲や自信につながり、保護者の評価も96%と高評価であった。 ・給食指導では「給食カード」の活用により、がんばって食べようとする園児が増えた。また、野菜に関する絵本の読み聞かせなど増やしたことで、苦手な物も食べようとする姿が見られる。 ・安全面では、廊下を走る園児もあり、事故が起こる前にルールの徹底をする必要がある。 	A
② 人間関係・自立心 ・ものごとの善悪や決まりの大切さに気付いて行動する態度 ・友達の気持ちを大切にしようとする態度 ・人とかかわる楽しさを感じ、一緒にやろうとする態度	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を経験することを通して、友だちの存在や関係性を意識させることができた。とくに運動会や発表会では、友だちと協力することの大切さを学んだ。 ・満3歳児と年少児と一緒に体操や散歩をさせたため、年少児が満3歳児を思いやる姿が多く見られた。 ・様々な場面で、子ども同士で思いを伝え合うようにした。 ・全体的に成長が見られるが、今後も心の教育や人間関係づくりを進めていく必要がある。 	A

<p>③ 言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを言葉で伝えようとする態度と力 ・話を聞こうとする意欲や態度 ・読み聞かせを楽しむ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語活動に、園児は大変意欲的に取り組んでいる。同時に、聞こうとする態度や表現しようとする姿が多く見られる。 ・各クラスで行っているインタビューが思いを伝え合うよい機会となっている。そのため思いを伝えることが上達している。 ・自分の思いは積極的に伝えようとするが、聞くことに課題も残るため、今後も話を聞くことを継続していく。 	A
<p>④ 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味や関心を持って取り組み心を動かされる姿 ・自分の思いを自分の方法で楽しみながら表現する喜び 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会は、発達段階に応じて子どもが楽しんで表現することができた。 ・作品展でも見られたように、制作は子どもの自由な発想が生かされていた。今後は、様々な材料を活用した制作の教材研究を進める必要もある。そのためには、教師の研修が欠かせない。 ・地域の読み聞かせ団体を招き演劇「3匹の山羊のがらがらどん」を企画した。今後も演劇など表現する楽しさを子どもに提供していく。 	A
<p>⑤ 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内外の動植物に興味関心を持って接しようとする態度 ・野菜や花の成長を喜び、世話をしようとする態度 ・環境とかかわって遊んだり遊びをつなげたりする態度 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・畑での野菜栽培は園外にあるため、途中の観察などがなかなかできなかった。それを補うために、プランターでの栽培をして、子どもに興味関心を持たせるよう工夫した。園外の野菜の生育途中を見学することも考えられる。 ・市街地に立地する環境ではあるが、子どもは園内で蝶や鳥、草花、氷などを発見するなど興味を示すことができた。 ・今ある環境をどのように工夫して活用するか研究することも大切である。 	B

(2) 園の重点目標や活動についての評価

<p>1 がんばりのきく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことがあっても最後までやり遂げようとする姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より3ポイント下がったが、先生からの励ましの言葉掛けや、友だち同士で刺激し合うことで、挑戦したり、がんばろうとする姿がたくさん見られるようになってきている。とくに、明誠寺ツツジの先生による運動遊びでは難しいこと挑戦させたりしていることも大きく効果をあげていると思われる。 ・給食がんばりカードなどの効果も大きいので、他の活動にも応用できないか検討していきたい。 	A
<p>2 思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを気遣い友達の気持ちを考えて行動する姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガをした年少児を年長児が優しく職員室に連れてきたり、困っている友だちに優しく声をかけたり、優しい行動が随所に見られるようになってきている。思いやりは良質な人間関係を築く基礎ともなるものであるため、今後も心の教育を継続していきたい。 	A
<p>3 あいさつのできる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶したり挨拶されたら挨拶を返したりする姿 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より6ポイント下がった。 ・儀式、ののさまなど全体ではとても大きな声で挨拶できるが、朝や帰りなど一人での挨拶はなかなかできない子どもも多いなど個人差が大きい。 ・職員室、教室に入る時の挨拶などはできる子どもは多い。 ・先生から粘り強い指導をし、挨拶することの気持ちよさを体感させていきたい。保護者の協力も不可欠で、家庭と連携しながら指導を進めていくことが大切である。今後も継続的に指導を進めていくことが必要である。 	B

<p>4 行事の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事での園児の姿、行事の計画・運営等の評価 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より5ポイント上がった。 ・子どもは様々な行事に楽しそうに参加している。とくに、運動会や発表会ではがんばって挑戦しようとする姿がたくさん見られた。 ・行事の目的・ねらいを明確にし、計画的に取り組むことで、子どもに達成感を味わわせたり自信をつけることができた。 	A
<p>5 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の理解に努めそれに応じた指導ができたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼時に、生徒理解に必要な情報をきめ細かく報告されている。そのため、職員間での情報共有がなされ、全職員で対応することができる。 ・特別支援の必要な園児に対して、関係機関や保護者との連携に心がけ、職員全体で共通理解に努めてきた。 ・発達障害を持つ園児が増えてきた現状を考慮し、特別支援教育の研修をしていく必要がある。 	A
<p>6 地域の施設や人材、自然を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域理解に努め地域を生かす指導ができたか 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・年少は例年以上に計画的に園外散歩を行うことができた。しかし、全体的には、園外保育の不足を反省する先生の声が多い。また、保護者からも園外散歩や園外活動を望む声が多かった。 ・英語など新しい取り組みが導入され、全ての活動をこれ1まで通りに年間計画に位置づけすることは難しいが、検討は続けたい。 	C
<p>7 保護者への対応や連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡や対応、連携が適切であったか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は保護者との連携の大切さを十分に認識している。欠席やケガなどはもちろんのこと、友だちとの関係で心配になることは保護者に電話などで連絡している。そのような丁寧で細やかな対応が保護者から評価された。 ・「園だより」に園全体の行事計画や各学年の保育計画、各家庭への依頼事項等を掲載し保護者の理解を図ってきた。また、学級のたよりでは日頃の子どもの様子を伝えている。 ・保護者からは予定や情報を早めに知らせてほしいと要望が寄せられているので検討していきたい。 	A
<p>8 園内研究や研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導力や保護者への対応力向上等の研修ができたか。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研修や夏の県振興協会主催研修及び初任者研修には積極的に参加できたが、定期的な園内での職員研修の時間はなかなか確保できなかった。しかし、保育力の向上には研修は欠かすことはできないので検討していきたい。幸い、はごろも教育研究奨励会より研究助成を受けたため、昨年度より研修を意識して保育を進めることができた。 	C
<p>9 校務分掌の適切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量と人数が適切で効果的な分掌となっていたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた職員数の中で、取り組む業務や分掌は増えている。一人に仕事が偏らないよう互いに補完し合っている。担当は早めの提案に心掛け、職員全員で取り組むように心掛けている。 ・チーム力が求められるため、全体会、主任会の充実を図った。 	B
<p>10 魅力ある園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就園先として選択される園づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、英語を取り入れたことにより運動（げんきっこ）、英語、マーチング、発表会という柱ができつつある。とくに、英語（サイバードリーム）で学習した園児が家庭で楽しそうに、覚えた英単語を驚くような発音で話す姿を見た保護者から高い評価を受けた。 ・課外の教室が運動、英語、ピアノの3つあり、充実してきた。 ・保護者が求めるニーズは何かを把握し、それに応えることが魅力ある園づくりとなると考える。 	A

4 評価の具体的目標や評価の総合的な評価結果

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばりのきく子」については、保育者が日常保育や運動会・発表会などの行事を通して、意図的に子どもに少しずつ負荷を与えながら挑戦させたり、やり抜かせたりするなどしたため、園児ががんばる姿が多く見られ、大きく成果を上げたと考える。 ・「思いやりのある子」については、普段の園生活の中で園児同士が優しく声を掛け合ったり、思いやったりする光景が随所に見られるなど、保育者の働き掛けが成果をあげている。 ・「あいさつのできる子」については、集団での挨拶は申し分ないが、個々を見るとまだまだ課題が大きい。今後の課題だと認識している。 ・本年度は、英語（ALT による英語教室、サイバードリームによる基礎）を新しく実施した。園児の興味関心は大変大きく、その変容ぶりも目を見張るばかりであり、保護者からの評価も高い。園の特色にするために、さらなる研究が求められる。 ・本園の運動、音楽、言語・英語、制作・造形の保育が評価され、はごろも教育研究奨励会により研究助成を受けた。この機に、研修を進めている。

5 評価委員会で出された意見

(1) 食育について

保護者が作るお弁当にキャラ弁を作る家庭もあるが、作れない家庭もあるので、そのような子への対応を大切にしてほしい。キャラ弁より、好き嫌いしないで食べるのが大切である。また、好き嫌いがある子に、一口食べたら褒めてあげるなど、一人一人に目を向け、個を大切にした指導をしてほしい。

(2) 環境について

毎年、同じような評価や意見が出されるが、市街地に立地する園であり、求めすぎてしまうのはどうだろうか。園内で得られるものもあるし、多感な時なので感じたことを拾っていききたい。何でも満たされることばかりがよい訳ではない。植物の生育途中の写真を撮って見せてあげることで子どもが気付くこともあるのではないか。また、プランター栽培も学びがある。

(3) 保護者対応について

子どもは自分に都合のいいことは話す、都合の悪いことはなかなか言わない。しかし、わが子の場合、担任から丁寧に電話をいただき、子どもと園の様子がわかり、ありがたかった。なお、園の様子がなかなかわからないので、自由参観日など園に行ける機会が増えるとうれしい。

(4) 特別支援について

発達に課題がある子への対応で、他の子への対応が疎かになると保護者からの批判につながる怖れもあるので、十分気をつけたい。様々な子どもと関わることで思いやりのある子が育つ。

(5) 教育活動評価について

子どもの姿で到達度を示したり、学年ごとのねらいを示すなどすれば評価しやすいのではないか。

6 次年度に取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
体力の向上とたくましさの育成	「心身ともに健康でたくましい子ども」の育成は保護者の願いでもある。本年度は課外の「げんきっこ」に加え、課内の体操も明誠杯 [®] ツクルの先生が指導したことで指導に一貫性を持つことができ大きな成果を上げた。次年度は、学年段階を考慮した運動の内容を研究し、さらに充実させたい。それが本園の魅力ともなると考える。
特別支援教育の研修	年々、発達に障害を抱えた園児や支援を必要とする園児の入園が増加している。自閉症などの情緒障害、知的障害、言語など障害の種類も程度も様々であり、その対応に苦慮しているのが現状である。障害を持った園児が生活しやすくなることは、健常児にとっても生活しやすいことでもある。そのためには、保育者が正しい知識と支援法を身につける必要があるため、研修を計画的に進めていきたい。
園の特色づくりと職員研修	本園の魅力（特色）は、運動、英語、音楽（マーチング）、絵画である。とくに、本年度から新たに取り入れた明誠杯 [®] ツクルの先生と保育者による運動、そして英語（ALT による英語教室とサイバードリーム）は、園児の興味関心が高く、意欲的に活動しているため保護者の評価も大変高い。 より魅力ある園づくりのため、運動、言語・英語・音楽・表現、絵画・制作を充実させていかなければならない。そのためにも、職員研修を充実させていく必要がある。